

# 内装監理 クラウド化 スペース、紙の書類9割減

スペースは内装監理業務を効率化するシステムを開発した。三井不動産が開発し、大阪で8日開業する大型商業施設の工事に初導入

した。内装監理業務の搬入届や作業届の作業時間を従来比7割、紙の書類を9割それぞれ削減できた。デベロッパなど利用者の評価を基にシステムを改良し、2023年内にもシステムを外販する。価格は今後詰める。初年度に20件、徐々に認知度を上げて2年以内に80件のサービス提供を目指す。

内装監理とは事業者（デベロッパ）の代行業務として、商業施設などの新設や改装時に搬入・搬送で出入りする工事業者らが、いつ、何時に何を持ち込



内装監理システムのスマホ画面イメージ

んだかなどを全て管理統括する業務。従来は紙を用いて作業工程を管理してきた。

スペースはこれらの業務をデジタル化。パソコンやスマートフォンなどの電子デバイスから、クラウド上で作業申請や搬入申請を可能にした。商業施設内などで移動せずにその場で申請などを確認できる。

業者は紙ではなくクラウド上で申請状況を確認可能で、一元的な管理により関係者が円滑に情報共有。「お知

らせ機能」で現場全体への連絡事項を確認して現場の安全・品質を向上するほか、大幅なペーパーレス化により環境負荷を低減できる。

三井不動産商業マネ

ジメント（東京都中央区）が運営・管理する三井ショッピングパーク・ららぽーと堺（堺市美原区）の内装監理で初めて採用された。スペースによると内装監理の搬入届や作業届の時間が1日当たり5時間短縮するなどの効果があったという。

今後、現在進行中のプロジェクトを含めて20の商業施設などの建設現場で運用し、利用者からのフィードバックをもとに改良を重ねて外販する予定だ。

スペースは72年に名古屋市西区で東海美装として設立した東証プライム企業。百貨店やスーパー、量販店などの内装工事やディスプレイを中心に事業展開している。21年12月期の売上高は約424億円。